

# 平成24年度 後期研修医募集について



八尾市立病院

平成23年5月作成

# 一 目 次

病 院 長 か ら の ご 挨 拶 . . . . .	1
病 院 紹 介 . . . . .	2
平 成 2 4 年 度 後 期 研 修 医 募 集 要 項 . . . . .	3
消 化 器 内 科 後 期 研 修 . . . . .	5
循 環 器 内 科 後 期 研 修 . . . . .	8
腫 瘍 内 科 後 期 研 修 . . . . .	10
外 科 後 期 研 修 . . . . .	12
乳 腺 外 科 後 期 研 修 . . . . .	14
小 児 科 後 期 研 修 . . . . .	15
麻 酔 科 後 期 研 修 . . . . .	16
履 歴 書 ( 兼 応 募 用 紙 ) . . . . .	19

## ● 病院長からのご挨拶

八尾市立病院

病院長 佐々木 洋 （大阪大学出身 外科）



意欲に燃えた医師を望む

八尾市立病院は、昭和25年の開設以来60年以上の歴史を刻む八尾市の中核病院です。当院では「安全で親切な医療の提供」「高度で良質な医療の実践」「患者さんの意思と権利の尊重」を基本理念に掲げ、患者さん中心の高度で良質な医療に取り組み、今や八尾市を越えて、中河内地区や大阪市平野区を含む地域の中核病院になりつつあります。平成21年度には、大阪府がん診療拠点病院の指定を受けると共に、平成22年1月には病院機能評価機構（Ver.6.0）の認定を受けました。病院の体制は、がん診療、救急、周産期医療などの急性期医療を中心に20診療科、一般病床380床（ICU5床、NICU6床を含む）を有する総合病院です。

当院は、平成16年にJR久宝寺駅のそばに新築移転しました。緑と採光に配慮した、美しい病院です。新築時に、電子カルテをはじめとした最新かつ高度な医療施設や機器を導入し、図書室、医局、当直室や院内保育所も充実させております。また、平成22年1月には2台目のMRIを導入したことをはじめ、環境に配慮した太陽光パネルによる発電装置を設置し、医局の増設工事を行うと共に、重症感染症にも対応可能な陰圧病室も整備しました。これらの病院の維持管理や運営は、先進的な取り組みとして、全国初となる民間のノウハウを活用したPFI事業による運営を取り入れています。

立地場所についても大変恵まれた環境にあります。当院はJR大和路線久宝寺駅から徒歩約5分の距離に位置し、大阪市内（天王寺駅）からは快速で約5分、各駅停車で約9分という至近距離です。また、JR久宝寺駅はJR大阪東線の起点でもあり、近鉄大阪線・奈良線・JR学研都市線とも連結しており、将来新大阪駅まで延伸される見込みとなっています。乗用車を使用する場合でも、当院は大阪中央環状線に近接し、高速道路インター（近畿道八尾出口）から5分以内という大変便利な環境です。

当院は、地域中核病院として地域の医療に責任を担っている公立病院です。新病院での重点診療領域は救急医療と癌診療ですが、診療はプライマリーケアから高度医療までを広く実践していますので、豊富な症例に恵まれ後期研修の場として最適です。また、前期研修で行った救急医療の研修実績を後期研修の場でも生かしてほしいと考えています。

後期研修の使命は、各診療科の専門医の養成にあります。現在、当院は約20学会の認定施設で、各診療科とも学会の専門医・認定医が研修を指導しています。

後期研修医の処遇は、研修に十分に打ち込める様、適した処遇を行い、研修によって、専門医資格取得のための診療の技術だけではなく、全人的医療を身につけていただきたいと考えています。

忙しいけれども、楽しい臨床研修を目指しています。後期研修意欲に燃えた多くの人の応募を待っています。

## ● 病院紹介

病院名	八尾市立病院	病床数	380床
開設者	八尾市長 田中 誠太	病院長	佐々木 洋
住 所	〒581-0069 大阪府八尾市龍華町1丁目3番1号		
電 話	072-922-0881（代表）		
U R L	<a href="http://www.hospital.yao.osaka.jp/">http://www.hospital.yao.osaka.jp/</a>		
交 通	J R大和路線 久宝寺駅下車 徒歩5分 近鉄バス 八尾市立病院前下車すぐ		
医師数	91名（平成23年4月末現在）		

# 平成24年度後期研修医募集要項

## ● 募集診療科及び人数

消化器内科	若干名	循環器内科	若干名	腫瘍内科	2名
外科	3名	乳腺外科	1名	小児科	若干名
麻酔科	若干名				

## ● 研修期間 3年間

## ● 研修内容

各診療科において作成された後期研修プログラムにより研修を行う。  
週一回の当直業務及び週一回（半日）の救急業務にも従事する。

## ● 応募資格

平成24年3月末までに研修修了見込みの人又は医師国家試験に合格し、2年間以上の臨床研修を終了した人

## ● 処遇

身分： 八尾市嘱託員（後期研修医）

給与： 月額 3年次 約645,000円      4年次 約655,000円  
5年次 約665,000円

（日直2回・宿直4回／月として概算。その他実情に応じて通勤手当、超過勤務手当等が支給されます。）

賞与： 年額 3年次 約641,000円      4年次 約668,000円  
5年次 約694,000円

公費による学会出張： 年1回（その他規程に基づく支給あり。）

社会保険： 健康保険、厚生年金、雇用保険・労災保険あり

宿舎： なし

医師賠償保険： なし（任意）

## ● 必要書類

履歴書兼応募用紙（写真貼付） 医師免許証 臨床研修修了見込証明書  
志望理由書（様式自由・A4用紙1枚程度）

健康診断書（直近の定期健康診断の写しでも可）

- 応募締切  
平成24年2月28日（定員になり次第終了とします。）
  
- 選考日時 随時
  
- 選考方法 書類審査及び面接試験
  
- 研修開始時期 平成24年4月1日
  
- 後期研修後の進路  
後期研修医の希望にそって親身になって相談に応じます。
  
- 病院（診療科）見学  
下記へ希望する診療科と見学希望日（できれば複数日）を記載して電子メールで申し込んでください。（診療科との調整を行います。）
  
- お問い合わせ先  
企画運営課 人事係 中田  
住 所 〒581-0069  
大阪府八尾市龍華町1丁目3番1号  
TEL 072-922-0881（内線2331）  
FAX 072-924-4820  
Email byouinjinjikakari@city.yao.osaka.jp

## 消化器内科後期研修

- 研修責任者名 消化器内科部長 福井 弘幸（消化器内科）
- 概要
  - ・ 早期胃癌に対する内視鏡下治療では従来の粘膜切除術（EMR）より進んだ治療である粘膜剥離術（ESD）を開始して6年以上になりますが開腹手術をせずに早期胃癌を治癒させることが可能となっています。
  - ・ 肝臓の治療では局所治療に非常に有用な経皮的ラジオ波焼灼術（RFA）を平成14年より開始しておりすでに180人以上の患者様が治療を受けています。
  - ・ 肝臓癌の早期発見・精査には、新病院で導入された16分割マルチスライスCTや1.5テスラ高性能MRIが非常に有用です。超音波学会認定の超音波技師が施行する腹部超音波検査（エコー）などと組み合わせ肝臓癌の早期発見・治療に取り組んでいます。
  - ・ 消化器内科・放射線科・消化器外科は互いに連携し、内視鏡治療・超音波下治療・血管内カテーテル治療・開腹手術あるいは抗がん剤治療などあらゆる治療選択に対応しています。
  - ・ 平成19年1月からは肝臓・胆道・膵臓外科を専門にする佐々木院長が成人病センターから赴任され、肝胆膵疾患に対してもますます積極的に取り組んでいきます。
  - ・ 肝臓癌の抑制に重要な慢性肝炎のインターフェロン治療も多数施行しています。
  - ・ 救急医療でも消化器内科関連疾患は多く、胆石発作や急性膵炎、上部消化管出血など多くの救急疾患に対応しています。
  - ・ 内視鏡下に胃腫瘍や膵疾患などの穿刺検査・治療を可能にしてくれる超音波内視鏡や、小腸の腫瘍・出血の精査治療に役立つ小腸内視鏡も有し診療に役立っています。
  - ・ 食道癌・胃癌の診断に非常に有用なNBI（Narrow Band Imaging）が可能な内視鏡システムも導入し、ますます癌診療に力をいれていきます。
- プログラムの特徴
  - 八尾市立病院は日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会・日本肝臓学会の専門医制度認定施設であり、消化器病学会専門医・消化器内視鏡学会専門医・肝臓専門医を含む7名のスタッフで、早期胃癌・肝臓癌を含む、上部下部消化管疾患・肝胆道疾患を中心に診療にあたっている。
  - 人口27万八尾市の中核病院であり、2次救急も担っており様々な消化器疾患を経験できる。充実したスタッフと設備を有する内視鏡センターにおける内視鏡治療に力をいれており、早期胃癌に対する切開剥離術を積極的に施行

している。その他あらゆる内視鏡あるいは超音波下処置を習得できる。

慢性肝炎に対するインターフェロン治療から肝臓に対するラジオ波焼灼術といった肝臓の発生予防・治療には従来から熱心に取り組んでいる。

中規模病院の長所として、放射線科や消化器外科医師との交流が盛んで知識・技能の向上につながる。

● 主な設備

完全フィルムレス・ペーパーレスの電子カルテシステム（研修、特に内視鏡・超音波・CT・MRIなどの画像をフル活用する消化器内科の研修には非常に有用です。）

内視鏡センター（上部下部消化管内視鏡室 3、透視設備付消化管内視鏡室 1、回復室、ミーティング室）、肝臓局所治療RFA（Radionics社Cool-tipRFシステム）等

● 取得できる認定・専門医

内科学会認定医・専門医、消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、肝臓学会専門医

● 主な症例数（平成22年1月1日から12月31日まで）

上部消化管内視鏡 3,246件 下部消化管内視鏡 1,641件

EVL・EIS 35件 EUS（FNA含む） 27件

PEG 15件 EST・ERCP・ステント留置術・PTCD 202件

ラジオ波焼灼術 38件 肝生検 12件

インターフェロン治療 30件

● 指導医からのコメント 消化器内科部長 福井弘幸

消化器内科は各臨床科のなかで最も忙しい科のひとつです。しかし消化器疾患を診断し、その最適な治療方針を患者様に提示し実践するという重要な役割を担い、また早期胃癌や肝臓などの治療までも行うやりがいのある診療科です。

2年間の前期研修を終え、医療の基礎的知識や技能は習得されているでしょう。これからは、医師としての今後の進むべき道を考え、またどのような専門的な分野に進みたいのかをよく考えてください。専門的知識や技能を有する臨床医を目指すのなら、また大学病院などでの臨床研究へ進む前にまず消化器内科的な臨床技術を身につけたいと決めたのなら本院消化器内科での後期研修を希望してください。

3年の後期研修ですが、消化器内科では、上部下部消化管内視鏡・腹部超音波検査などの一般検査はもちろん一人で自信を持って施行できるように、ポリペクトミー・消化管疾患止血術・内視鏡下逆行性膵胆管造影乳頭切開術

(ERCP・EST)・経皮経肝胆道ドレナージ(PTCD)・内視鏡下胆道ドレナージ(ERBD)またステント挿入術および超音波内視鏡・肝生検といった手技は指導医のもと自身で施行可能なように、内視鏡下切開剥離術(ESD)・超音波内視鏡下生検(FNA)やラジオ波焼灼術(RFA)などは助手として経験を積んで術者を目指せるようにトレーニングを積んでください。

また、論文や学術書を読んで勉強し学会発表することにより専門的知識を習得し、前期研修医を指導するという異なった立場を自身の知識・技能の復習に役だてましょう。

## 循環器内科後期研修

- 研修責任者名 循環器内科部長 足立孝好

- 概要

八尾市立病院は、380床を有する大阪府中河内地域の中核総合病院で、循環器内科として約24床を受け持っています。平成16年に新築移転してからは、診断・治療機器も一新し、救急患者、PCI患者共に増加傾向にあります。

八尾市立病院の特徴として、バランスのとれた研修があげられます。全体としての症例数は、決して多くありませんが、大病院によくみられる循環器の中での細分化（カテだけ、エコーだけ）といったことがなく、偏らない十分な研修が受けられます。

さらに、内科他部門との垣根が低く、スタッフ全員がいわゆる“教え好き”で、コンサルテーションがしやすいのも八尾市立病院の特徴としてあげられます。また、学会発表についても積極的で、研修期間中には、最低限年に2回程度の学会発表をしてもらいます。

今後、大きな飛躍が期待できるまだ若い循環器科です。皆さんの若い力で一緒に大きくしていきましょう。

- プログラムの特徴

八尾市立病院は、日本循環器学会教育施設であり、3名の循環器専門医の下、虚血性心疾患を中心に様々な循環器疾患を経験出来る。また、希望すれば、他の内科専門科を自由にローテートすることも出来る。

平成16年に新築移転したばかりであり、循環器関連のほぼ全ての最新鋭機器が揃い、専門医資格取得についても十分な配慮がなされている。

具体的には、以下の内容を目標として研修を行う。

- ・循環器疾患の全般に亘り概ね単独で診断し、治療方針を決定できる。
- ・非観血的検査（エコー、R I、負荷心電図、ホルター心電図、冠動脈C T）を単独で解釈できる。
- ・循環器疾患の救急症例についてその診断や治療をリーダーとして行える。
- ・冠動脈造影、ペースメーカー植え込みは、指導医の立会いの下、単独で施行できる。

- 主な設備と医療内容

ICU 5床 (CCU 2床)

血管造影装置 東芝 心エコー フィリップス3D

C T 東芝16列マルチ MRI フィリップス1.5T

血管内エコー ボストン3D R I 日立

IABP PCPS 脈波

- 取得できる認定・専門医

内科学会認定医・専門医・循環器学会専門医

- 主な症例数（平成22年1月1日から12月31日まで）

急性冠症候群 31件    心エコー 1,962件    心臓カテーテル検査 234件  
PCI 53件    ペースメーカー 14件    アブレーション／EPS 9件

# 腫瘍内科後期研修

- 研修責任者名 腫瘍内科部長 烏野 隆博

- 概要

①がん薬物療法に関する十分な基礎知識②標準治療の施行③がん化学療法に対する適切な支持療法（副作用対策）④緩和医療 を習得することを目標にしています。そのために、悪性リンパ腫など治癒を目指すことのできる造血器悪性疾患やQOLの向上やそれに伴う延命を目的とした固形癌など種々の疾患の標準的治療法をはじめとして、臨床治験など最新の抗癌剤治療法についても研修していただく予定です。受診診療科が明確でない原発不明がんに対する化学療法も含まれています。さらに抗癌剤治療において重要な位置を占める感染症等の合併症に対するマネージメントについても研修することができます。

- プログラムの特徴

日本臨床腫瘍学会や日本血液学会の専門医カリキュラムに従った研修を行っていきますが、全人的視点に立って診療計画・治療計画を立てることから緩和医療にいたるまで常にディスカッションを行うことをモットーとしています。そのためほぼマンツーマンに近いかたちでの指導体制をとっていることが大きな特徴です。適切な支持療法の修練のため血液疾患患者を対象に骨髄抑制・感染症に対する研修やさらに数ヶ月の病理学研修を組み入れていることも大きな特徴です。

化学療法の場は外来へと移行してきています。外来で患者さんの安全性を担保しながら施行するには十分な知識や経験が必要です。そのための土台作りとして、外来診療あるいは初期研修医への教育などを通して診断学・総合内科学も研修していただく予定です。

- 主な設備

2床の無菌室、1床の準無菌室があり高度の白血球減少が予想される患者の治療に使用している。また9床の通院治療センターも設けている。

- 取得できる認定・専門医

日本内科学会認定医・専門医、血液学専門医、がん治療認定医、がん薬物療法専門医

- 主な症例数（平成22年1月1日から12月31日まで）

外来化学療法 約400件

入院 肉腫 22例 悪性リンパ腫 17例 肺癌 7例 大腸がん 6例

乳がん 6例 急性白血病 8例

● 指導医からのコメント 腫瘍内科部長 烏野 隆博

がん治療の中で抗癌剤を使った化学療法の果たす役割が大きくなってきています。これに携わるのが腫瘍内科で、昨今の腫瘍専門医制度の設立など脚光を浴びている分野です。

当院の腫瘍内科は、各科まちまちで行っていた化学療法を、抗癌剤の熟知した医師の管理の元で行っている、公立機関では数少ない病院の一つです。年々増加してきているがん患者さんに対して効果的かつ安全に治療を行うことによってがん診療の向上を目指しています。

2年間の臨床研修終了後、内科認定医、血液専門医あるいはがん治療認定医になるための研修です。研修医の先生方は担当医として常勤主治医から指導をうけます。専門医制度規則（日本内科学会、日本血液学会、日本臨床腫瘍学会）による専門医修練施設です。

## 外科後期研修

- 研修責任者名

病院長・大阪大学医学部臨床教授 佐々木 洋（一般外科・消化器外科）  
外科部長 横山 茂和

- 概要

当科の基本的な研修内容は、外科領域での基本的診断・治療の習得です。当院外科業務では癌診療が最も多くを占めますが、虫垂炎などの一般外科疾患、救急疾患なども扱います。手術、化学療法、内視鏡的治療、緩和療法、救急診療、外科診断学、周術期管理など多岐な分野での臨床研修をしていただくこととなります。

手術については外科標準術式の習得が目標となりますが、能力次第では高度な癌手術を執刀してもらうこともあります。当院では研修医の先生にも積極的に術者をしてもらっています。また外科系救急疾患にも関わりますので、幅広い疾患を扱うための経験についても修練していただけます。専門的な外科治療を目指す先生にとっても、オールマイティーな力を身につける目的を持った先生にとっても当院での研修は登竜門として最適と考えます。

疾患により「上部消化管」、「下部消化管」、「肝胆膵」、「乳腺」、「呼吸器」の専門領域のスタッフに指導を受けることとなります。全員フレンドリーでマイルドな外科スタッフですので、伸び伸びと研修していただくことができます。

- プログラムの特徴

日本外科学会、外科専門医修練カリキュラムに従い、外科専門医制度修練施設である八尾市立病院において、外科専門医受験資格が取れます。外科専門医を取得しておかなければ消化器外科専門医、呼吸器外科専門医、救急専門医などのスペシャリティーを有する専門医受験資格が取れません。また、八尾市立病院研修中の2年目または3年目で、各専攻医の症例経験数の不足分（主として心臓・大血管症例）は、大阪急性期総合医療センターなどと連携して行う予定です。

- 主な設備

電子カルテ・麻酔・画像（放射線・生理・内視鏡）システムを中心とした独自の総合医療情報システムを導入しています。中央手術部門システムはICUを包括しており、世界的にも比類のないものであり、胸・腹腔鏡手術機器5台を有し、1室は液晶画面によるテレサージェリーが可能です。また、外来治療センターでの外来化学療法、内視鏡センターでの消化管内視鏡検査、超音波エコー検査なども外科独自に実施しており、消化器内視鏡手術も研修

可能です。なお、すべての画像は高精細画像とウェブ画像で参照できます。

● 主な症例数（平成22年1月1日から12月31日まで）

全麻症例	569件	腰椎麻酔症例	117件	食道癌切除	1件
胃癌切除	52件	大腸癌切除	98件	(結腸63 直腸35)	
乳癌切除	105件	原発性肝癌	11件	転移性肝癌	13件
膵癌切除	8件	胆管癌切除	7件	胆嚢癌切除	4件
胆石症	86件	鼠径ヘルニア	110件	虫垂切除	50件
腹腔鏡手術：胆嚢摘出	77件	大腸切除	40件	胃切除	14件

● 指導医からのコメント 外科部長 横山茂和

2年間の初期研修終了後、外科専門医になるための研修です。消化器外科（内視鏡・腹腔鏡下手術を含む）、乳腺外科、呼吸器外科、一般外科、救急総合診療科を診療責任とし、疾患別の指導体制を敷いています。研修医の先生方は担当医として常勤主治医から指導を受け、また、外科専門医・消化器外科専門医・乳腺専門医・化学療法専門医・消化器内視鏡専門医が指導を行います。

外科専門医（その後の消化器外科専門医を含む各学会専門・指導医）習得に十分な手術症例（心・血管外科を除く）を有しており、専門医制度規則（日本外科学会、日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本乳癌学会）による専門医修練施設です。

## 乳腺外科後期研修

- 研修責任者名

乳腺外科部長 森本 卓

- 概要

八尾市立病院外科は、一般的な外科的疾患以外に、腫瘍外科の臨床に力を注いでいます。具体的には、胃・食道癌を中心とした「上部消化管グループ」、原発性・転移性肝癌、膵臓癌、胆のう癌を扱う「肝・胆・膵グループ」、結腸・直腸癌を専門とする「下部消化管グループ」、乳癌を中心とする「乳腺グループ」の4つのグループに分かれ、高度に専門化した「がん」の診療を行っています。

なかでも乳腺は診断、手術、化学療法など多数の症例があります。

研修医の先生方には、外来での初期診療から、各種の検査、確定診断と手術術式の決定、手術、周術期の管理、病理組織診断、抗がん化学療法など、盛り沢山の内容で、かなりの経験を積んで頂けるよう配慮しています。

- プログラムの特徴

日本外科学会、外科専門医修練カリキュラムに従い、外科専門医制度修練施設、乳癌学会認定施設である八尾市立病院において、

- ① 外科専門医受験資格が取れます。また乳腺専門医取得に必要な臨床経験も十分にできます。(手術経験) 2年目以降は乳腺を中心とした研修を受けていただく予定です。
- ② 八尾市立病院研修中の2年目又は3年目で、各専攻医の症例経験数の不足分(主として心臓・大血管症例)は、大阪府立成人病センターなどと連携して行う予定です。

- 主な設備

病床数 外科と合わせて54床

電子カルテ・テレパソロジー・麻酔・画像(放射線・生理・内視鏡)システムを中心とした独自の総合医療情報システムを導入しています。

中央手術部門システムはICUを包括しており、世界的にも比類のないものであり、胸・腹腔鏡手術機器5台を有し、1室は液晶画面によるテレサージェリーが可能です。外来治療センターでの外来化学療法、内視鏡センターでの消化管内視鏡検査、超音波エコー検査なども外科独自に実施しています。消化器内視鏡手術も研修可能です。なお、すべての画像は高精細画像とウェブ画像で参照できます。

- 主な症例数(平成22年1月1日から12月31日まで)

乳癌手術(初発のみ) 109件 針生検 277件

- 指導医からのコメント 乳腺外科部長 森本 卓

乳腺専門医取得に必要な臨床経験を積んでいただきます。病理診断科、腫瘍内科など関連科での研修も可能です。

# 小児科後期研修

- 研修責任者名

副院長・奈良県立医科大学臨床教授 高瀬 俊夫  
小児科医長 上田 卓

- 概要

初期臨床研修にて習得した知識・技術や基本的な診断能力をさらに向上させ、患者中心の全人的医療を実践し、より高度な専門知識を習得し専門医を目指します。

- プログラムの特徴

日本小児科学会専門医研修施設として3年間で専門医としての症例を研修します。外来診療においては指導医の下、急性疾患・慢性疾患の診療を行い、乳児健診、予防接種などの保健業務にも携わり、また、乳児の点滴・採血などの処置ができる技術を習得します。救急外来では、時間外の痙攣や意識障害等の救急医療を経験することで緊急疾患への迅速な対応を実践し治療方法を習得します。入院診療においては、入院患者の主治医として指導医とともに病態を把握し、検査・処置・治療を系統的に理解する技能を習得します。NICUでは緊急帝王切開などに立会い、低体重出生児・呼吸障害児の呼吸管理や処置・治療を指導医のもとに行い、新生児特有の全身管理を習得します。また、感染防止や安全対策についても習得します。

- 主な設備

MRI、CT、新生児用呼吸器等

- 取得できる認定・専門医

小児科専門医

- 指導医からのコメント 副院長・奈良県立医科大学臨床教授 高瀬 俊夫

昭和28年八尾市立病院に小児科が開設して以来、地区の中核小児医療機関として24時間体制の救急医療から高度先進医療まで多様な医療を実践し、住民や開業医からの高い評価を受けています。また府下の新生児医療の一端を担っており、大阪府新生児診療相互援助システム（NMCS）の参加病院として活動、地域周産期母子医療センターに認定されています。

小児科病棟は病床数45床（一般39床、NICU6床）、小学校・中学校の院内学級とプレイルームを有し、平成16年病院新築とともに最新の医療機器を備えています。

小児科後期研修の具体的目標は日本小児科学会専門医取得です。小児科専門医は3年間の後期研修を経た時点で受験資格が得られます。専門医受験資格を得るには種々の症例の一定数の経験を報告する必要がありますが、当科では、未熟児・新生児から年長児まで、急性疾患から慢性疾患までの症例を経験することが可能で必須の疾患はほぼ経験することができます。

## 麻酔科後期研修

- 研修責任者名  
麻酔科部長 小多田 英貴
- 概要  
ーバランスの取れた麻酔科研修ー  
当科は現在麻酔科医9名（内、後期研修医2名）である。手術麻酔以外にも、集中治療、ペインクリニック、緩和医療も積極的に行っており、各分野専門医指導のもとバランスのとれた麻酔科研修が行える。
- プログラムの特徴  
ー幅広く麻酔関連業務を研修したい医師を求む！ー  
後期研修医1年目は、あらゆる手術の周術期管理に習熟し、合併症を有する患者の全身管理を円滑に行えるようになることを目標とする。一般的な麻酔手技として、気管挿管、動・静脈カテーテルの挿入、中心静脈穿刺、硬膜外麻酔、脊椎麻酔に習熟する。同時に輸液管理や、呼吸・循環管理について学ぶ。2・3年目は本人の希望にあわせて、ICU、ペインクリニック、心臓外科麻酔などの研修を選択できる。心臓外科麻酔は関連施設での研修となる。  
また、当直を含めた救急外来業務にも携わるため、平行して救急に関する研修・指導も受けることができる。  
日本麻酔科学会、臨床麻酔学会、日本集中治療医学会、日本ペインクリニック学会などへ積極的に参加し、学会発表、論文作成なども指導医の十分なサポート下で行っていく。
- 主な設備  
手術室7室、ICU5床、人工呼吸器5台、NPPV1台、気管支鏡3台、エコー1台、グラム染色スペース
- 取得できる認定・専門医  
麻酔科専門医、集中治療専門医、ペインクリニック認定医
- 主な症例数（平成22年1月1日から12月31日まで）  
全手術症例 約2,500件 全身麻酔症例 約2,000件  
ICU入室患者数 約1,000件
- カンファレンス等  
麻酔担当症例のチェックとICUカンファレンスを毎朝、モーニングカンファレンスを週1回、Critical Care Lectureを2、3ヶ月に1回
- 先輩医師からのコメント  
  
集中治療部 副医長 助永 親彦  
専門：集中治療・感染症・手術麻酔・ペインクリニック

出身大学：大阪市立大学

—幅広い視野を持った研修医にはうってつけの病院です！—

近年「麻酔科医」が活躍できるフィールドは飛躍的に広がってきています。手術麻酔のみならず、救急・集中治療・ペインクリニック・緩和医療など多岐に渡っています。また、中央科としての特性も活かし、ICT（感染症）、RCT（呼吸器）、PCT（緩和）、NST（栄養）などチーム医療においても活躍が期待されています。

当院麻酔科チームにおける研修の最大の特徴は、幅広い麻酔関連業務の中から自分の希望にあわせて研修内容をオーダーメイドできることです。「とりあえず麻酔科専門医をとってから・・・」なんていったらパワーみなぎる時期は終わってしまっているかもしれません。

もちろん、研修終了後の進路についても希望に応じて親身になって相談に乗ります。僕らと一緒に幅広い視野を持ち、総合力を兼ね備えた「麻酔科医」を目指しませんか？



(あて先)八尾市立病院長

## 履歴書兼応募用紙

八尾市立病院後期研修医として採用願いたく、所定の書類を添えて申し込みます。

ふりがな					
氏名					
生年月日	昭和 年 月 日	男・女			
申込診療科	後期研修プログラム				
医籍登録番号	第 号	登録年月日	平成 年 月 日		
ふりがな					
現住所	〒 -				
電話番号	自宅 - -	携帯 - -			
E m a i l					
期 間		学歴・職歴(各別にまとめて書く)			
平成 年 月 日～平成 年 月 日		大学 学部			
平成 年 月 日～平成 年 月 日					
平成 年 月 日～平成 年 月 日					
平成 年 月 日～平成 年 月 日					
平成 年 月 日～平成 年 月 日					
現在の臨床研修について	臨床研修 病院名	臨床研修 プログラム番号		(病院で複数プログラムがある場合のみ記載)	
	診療科	研修 月数	主な指導医	診療科	研修 月数
	①	ヶ月		⑦	ヶ月
	②	ヶ月		⑧	ヶ月
	③	ヶ月		⑨	ヶ月
	④	ヶ月		⑩	ヶ月
	⑤	ヶ月		⑪	ヶ月
⑥	ヶ月		⑫	ヶ月	

※研修を行った(または予定)診療科を順番にご記載ください。【合計24ヶ月】

※他の必要書類・・・医師免許証(写し)、臨床研修修了見込書、志望理由書(様式自由・A4用紙1枚程度)、健康診断書(直近の定期健康診断の写しでも可)

写 真  
4cm×3cm  
上半身・脱帽・正面  
過去3カ月以内に  
撮影したもの